

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①本の読み聞かせや音読、MY漢字・計算検定の取組等を通して読書や学習習慣を確立し基礎・基本を習得するとともに、身に付けた知識や技能を使って考える力をはたらかせて、粘り強く課題を解決していく力を育む。②体験的で協動的な活動を大切に、学ぶことの意義や楽しさを感じながら意欲的に学び続ける力を育む。	①学力向上に向けた学校の努力について問うアンケートでは、90%の保護者から「そう思う」「ややそう思う」との評価を得た。②校内研究では本物・本気・本質を合言葉に、子どもが目的を明確にして意欲的に学べる授業づくりを学校全体で追究した。	B
豊かな心	①自分をかけがえのない存在として大切にするとともに、他者を尊重できる心を育む。②ペア学年活動、特設クラブ、幼保小交流等異学年交流を充実させることで、自分を律し、相手を思いやって行動できる優しさを育む。③積極的に周りに相談したり、助けを求めて困難を乗り越えたりできるように「なかよし」な生き方を育む。	①自分や友達を大切に生活できているかというアンケートには、児童の90%が「そう思う」「ややそう思う」と回答したが、からかいやいじめなど友達を大切にしない事例も認められた。③悩みや困りごとをカウンセラーに話して気持ちを整理できるように働きかけた。	B
健やかな体	①「早寝・早起き・朝ごはん」とあいさつ運動など家庭とも連携して望ましい生活習慣を身に付けるとともに、学校保健委員会でけがの防止に取り組む健康や安全への意識を高める。②体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自ら進んで運動やスポーツを行い、心身ともにたくましく生きる力を育む。	①学校保健委員会でけがの防止に取り組み、けがを減らすことができた。②運動能力や体力は全国平均を下回っていることから運動に親しむ機会を増やし、体を動かすことの楽しさを味わえるようにすることが課題である。	B
児童指導	①「南吉田小学校スタンダード」を共有しルールや約束事の定着を図る。②児童指導全体会を開催し児童理解を図り、必要な指導や支援が全職員体制で行えるようにする。③児童相談所、区役所、警察等関係機関との連携を緊密にするとともに、学校カウンセラーを活用し家庭でも学校でも子どもが安心して過ごせる環境を整える。	②児童指導については全職員で情報を共有し組織的に対応することができた。③関係機関と緊密に連携しSSWの活用を図ることで子どもが安心して過ごせる学校づくりを進めた。	B
特別支援教育	①個別支援学級と一般学級の連携で、個に応じた支援の充実を図る。②国際教室・日本語教室と一般学級の連携を充実させ、授業のユニバーサル化を進める。③障害の有無、国籍や文化の違い等に関わらず、お互いの人権や尊厳を大切にできる心を育む。③特別支援教室を活用し、困難を抱える児童の支援を行う。	①個別支援学級の指導体制や学びの場を整備し一人一人が落ち着いて学習できるようにした。②国際教室と一般学級が連携して学習をすすめることができた。③特別支援教室(チャレンジ教室)を有効活用し子どもたちが安心して過ごし学ぶ場を充実させた。	A
地域連携	①地域行事への参加や、「まちの先生」から地域社会とのつながりを学ぶ機会を通して、まちの魅力を発見し愛着をもてるようにする。②「地域清掃」「ハマロードサポーター」「地域防災訓練」等の活動を通して、まちの一員として自分ができることを考え、実践できる力を育てる。	①地域行事への参加を働きかけ多くの児童が参加した。②行事への参加を通して地域の一員としての自覚の醸成に努めたが道半ばである。	B
豊かな人間関係(多文化共生)	①つながる遊び、ワールドランチ、母語教室等を通して、外国人児童の国や文化を知り、自他の違いを受け止めながら、価値観や背景の異なる相手ともコミュニケーションを図り、共に生きていく力を育む。②外国人児童のアイデンティティを確保し自尊心を高める。③日本人保護者と外国人保護者が交流する機会を設け人間関係を	①多文化共生の取組は全国のモデル事業として多くのメディアに取り上げられた。②運動会での多言語放送や聖火リレーの取組が2020オリンピック・パラリンピック組織委員会の「みんなのスポーツフェスティバル」優秀賞に輝いた。	A
a15			
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会を設置し、管理職、担任、児童支援専任、養護教諭等を中心として全職員で組織的に対応する。②アンケートや教育相談等を実施し人間関係に起因するトラブルや悩みを定期的に把握しいじめの未然防止と解消に努める。	①いじめが疑われる案件に関しては職員全員でアンテナを高くして組織的に対応した。②全校朝会や学年集会、学級での時間や道徳の時間にいじめが生命に関わる重大な結果を招くことがあることを繰り返し指導し未然防止と解消に努めた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが人材育成に関与する研修を定期的に開催する。②教務会、主任研修等を実施し学校運営に参画する意識を高める。③業務改善を図るとともに、教職員が働きがいを感じながら心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の整備を行う。	①メンターチームでの研修が機能し経験の浅い教員が授業研究に積極的に取り組み授業力向上に寄与した。③働き方改革についてはなお改善の余地がある。	B
ブロック内評価後の気づき	教職員相互の授業参観や交流活動を通して、児童生徒理解を深めブロックとして共有すべき課題や目標について考えることができた。横浜吉田中学校ブロックは外国人児童生徒が多く在籍することから、国際教室における日本語指導や進路指導につながるキャリア教育、多文化共生教育のあり方についても今後意見交換を深めていきたい。		
学校関係者評価	学校として地域防災訓練に参加しており保護者も含めて1200名ほどの参加があった。防災意識を高める上では有効な方法と考えられる。児童のICT活用が年々進んでおり一層の充実を図りたい。頭と同時に体を動かすことも大切にし体力や運動能力を伸ばす実践にも期待したい。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①基礎学力の定着を図ると共に、校内研究と関連付けて語彙の習得と表現力を伸ばす授業づくりを推進する。②日常生活や社会とのつながりを意識した授業づくりを行うことで生きてはたらく知識を獲得し考える力を育む。③ICTも活用し主体的、対話的で深い学びの実現を目指す。		
豊かな心	①「自分を大切にする」「友達を大切にする」を様々な教育活動の振り返りの視点として定着させ意識づけられるようにする。②子どもが認められる場面をさらに増やし自尊心を一層高められるようにする。③道徳科の充実の一層の充実を図る。		
健やかな体	①生活習慣が乱れがち子どももいることから、引き続き家庭との連携を図り望ましい生活習慣の確立に努める。②学校保健委員会での活動を継続し意識化を図る。③オリンピック・パラリンピック教育の推進を通して、運動に親しむ機会を増やし体力や運動能力の向上を図る。		
児童指導	①「南吉田小学校スタンダード」の定着を図り職員が同じスタンスで指導できる体制を強化する。②児童指導全体会で情報共有し組織的な対応ができるようにする。③関係機関連携を一層充実させ、学校だけでは解決できない課題についてもアプローチできる体制づくりを進める。		
特別支援教育	①個別支援学級において一人ひとりの特性に合わせた学習を展開し学力の伸長を図る。②国際教室と在籍学級との連携を充実させ日本語能力の伸長を図る③チャレンジ教室の機能を充実させ、細かいニーズに応じた学習を展開できるようにする。④放課後学習教室の開設		
地域連携	①ホームページ等で積極的に広報し地域行事への参加を働きかける。②2年生商店街探検、3年生まち探検、4年生吉田新田探検等を中心にまちの魅力を発見し愛着をもてるようにする。③「地域清掃」「地域防災訓練」等の活動を通して、まちの一員として自分ができることを考え、実践できる力を育てる。		
豊かな人間関係(多文化共生)	①日本人児童と外国人児童が共に学ぶ学校として多文化共生教育を推進し積極的に発信する。②つながる遊び、ワールドランチ、特設クラブ母語教室等を通して、国や文化の違いを受け止め、価値観や背景の異なる相手ともコミュニケーションを図り、共に生きていく力を育む。		
a15			
いじめへの対応	①いじめが疑われる案件に関しては職員全員でアンテナを高くして組織的に対応する。②アンケートや教育相談等で人間関係に起因する悩みを把握するとともに、全ての教育活動を通していじめ防止や生命尊重について指導していく。		
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム研修を通して経験の浅い教員の人材育成を充実させる。②校内研修を活性化し主体的に学校づくりに参画する意識を高める③年次研修受講者を中心に改革推進委員会を組織し働きやすい職場づくりを進める。		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	c1		
豊かな心	c2		
健やかな体	c3		
児童指導	c4		
特別支援教育	c5		
地域連携	c6		
豊かな人間関係(多文化共生)	c7		
a15	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営(働き方改革)	c10		
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	「多様性を尊重し、人やまちとのつながりを大切に学校にします」との中期取組目標掲げて教育活動を展開した。外国籍児童やつながる児童が多数在籍する本校ならではの特色を生かした活動が行われ運動会の取組が2020オリンピック・パラリンピック組織委員会の「みんなのスポーツフェスティバル」優秀賞に輝いたことは成果と考えられる。まちとのつながりを一層大切にする視点から学校運営協議会の設置に向けた動きを次年度以降具体化していく必要がある。
------------	--

中期取組目標振り返り	
------------	--

中期取組目標振り返り	
------------	--